



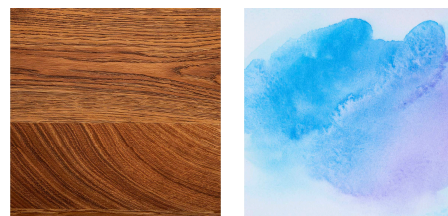
# やってみよう Adobe Firefly! Photoshop「画像を生成」で テクスチャー素材を手軽に生成

※画像使用についての注意事項 課題用に提供されているストック画像をワークショップ以外の用途に利用することを禁じます。

## 目次

### STEP\_1 8～10分

#### 「テクスチャー画像」と Photoshopの「画像を生成」について



### STEP\_2 8～10分

#### 紙のテクスチャー画像を生成しよう



### STEP\_3 8～10分

#### 光のテクスチャー画像を生成しよう




### STEP\_4 8～10分

#### ひび割れたコンクリートのテクスチャー画像を 生成しよう



# 「テクスチャー画像」と Photoshop の「画像を生成」について

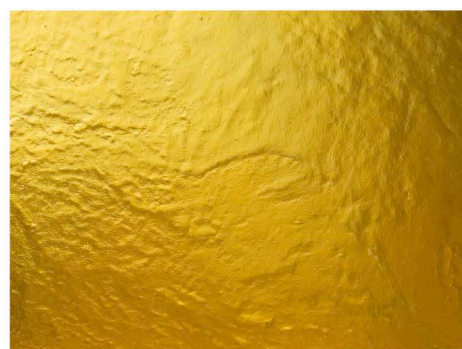
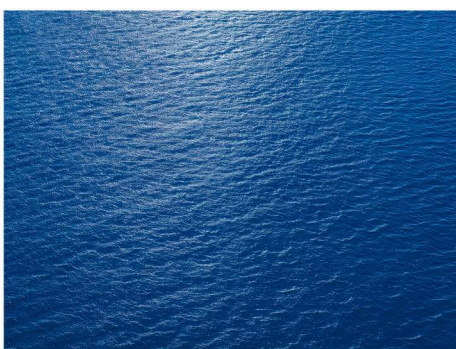
 このステップで学べること：「テクスチャー画像」とは何か／「画像を生成」でできること

## 1-1 「テクスチャー画像」とは

テクスチャー画像は、素材の表面の質感や模様を視覚的に表現した画像です。

たとえば、紙・布・木材・金属・コンクリート・泡・煙・水滴・ひび割れ・スクラッチ・グレインなど、様々な物質感を持った画像が該当します。

Photoshop では、これらの画像をデザイン素材に重ねて、奥行き、リアリティ、アナログ感、ラフな質感などを演出できます。



## 1-2 「画像を生成」とは

「画像を生成」は、Photoshop の生成 AI 機能のひとつで、テキストから画像を生成できる機能です。

空のキャンバスや既存のドキュメント上に、写真風・イラスト風・3D 風など、さまざまなスタイルのビジュアルを生成できます。

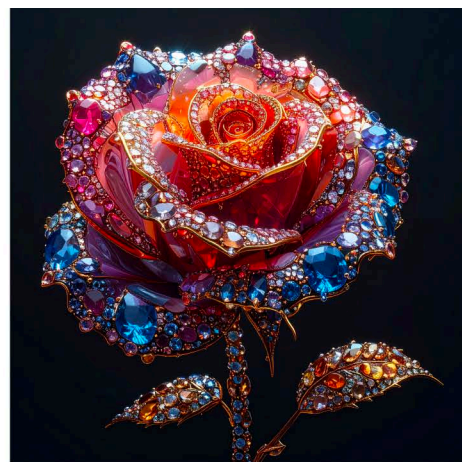
※本機能の詳細は、前回のワークショップで解説しています。参照したい方は、[前々回の内容](#)をご確認ください。



プロンプト：日本人の男性モデル  
コンテンツタイプ：写真



プロンプト：日本人の男性モデル、水彩  
コンテンツタイプ：アート



プロンプト：宝石で作られた1つの薔薇、黒背景  
コンテンツタイプ：写真

## テクスチャー素材に「画像を生成」を使うメリット

テクスチャー素材を「画像を生成」で作る最大のメリットは、欲しい質感を手軽に・高品質で作成できる点です。

- 素材の撮影や素材サイト検索の手間が不要になる
- 商用利用可能なテクスチャー画像をテキストから生成できる
- 手持ち素材では再現が難しい細かなニュアンスを自由にカスタマイズ可能

Photoshop の「画像を生成」を活用すれば、「破れた紙の端」「やや湿った木目」「泡が浮かんだ水面」など、プロンプトで柔軟に指定しながらテクスチャー画像を生成できます。

## 1-3 テクスチャー画像を生成してみよう \_1

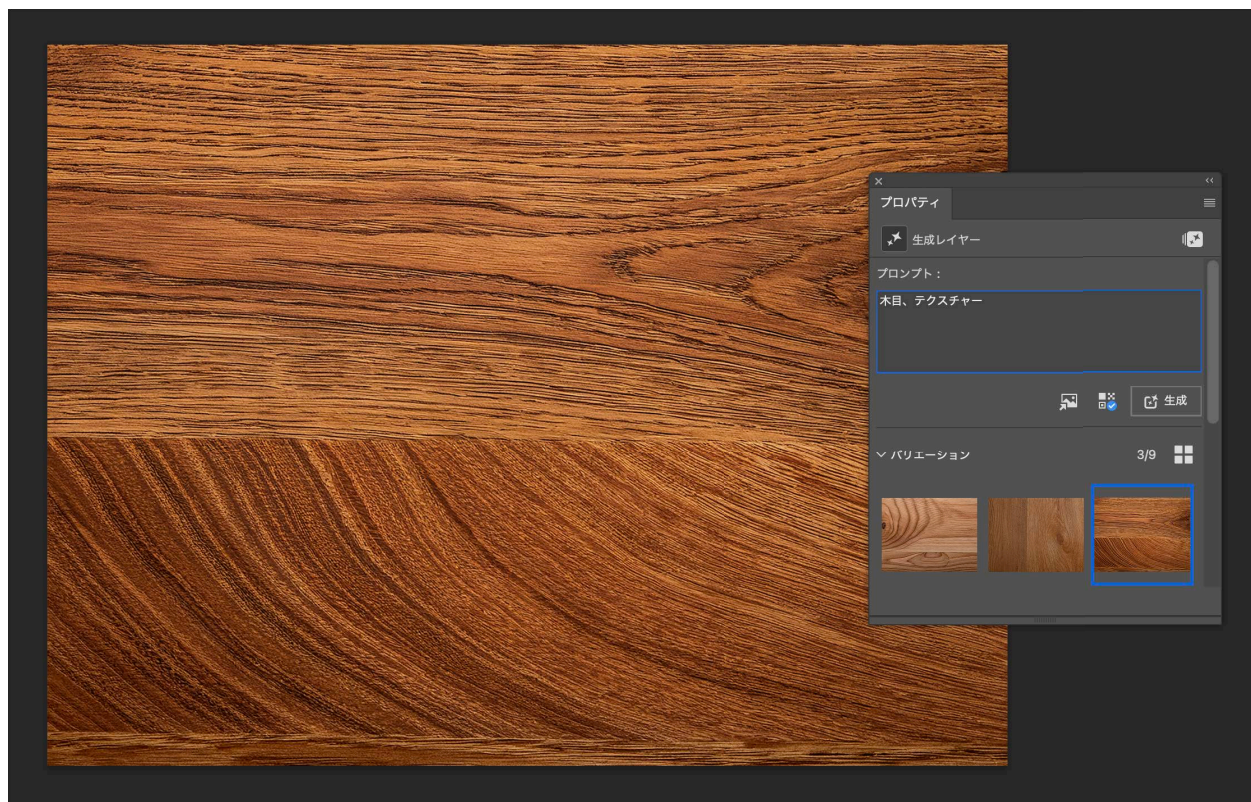
### 木目のテクスチャー

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample\_step1\_1.psd を開く
- ②「画像を生成」のダイアログを開く
- ③プロンプトを入力「木目、テクスチャー」
- ④コンテンツタイプを「写真」にする
- ⑤ 効果「コンセプト」→「シンプル」を設定
- ⑥生成



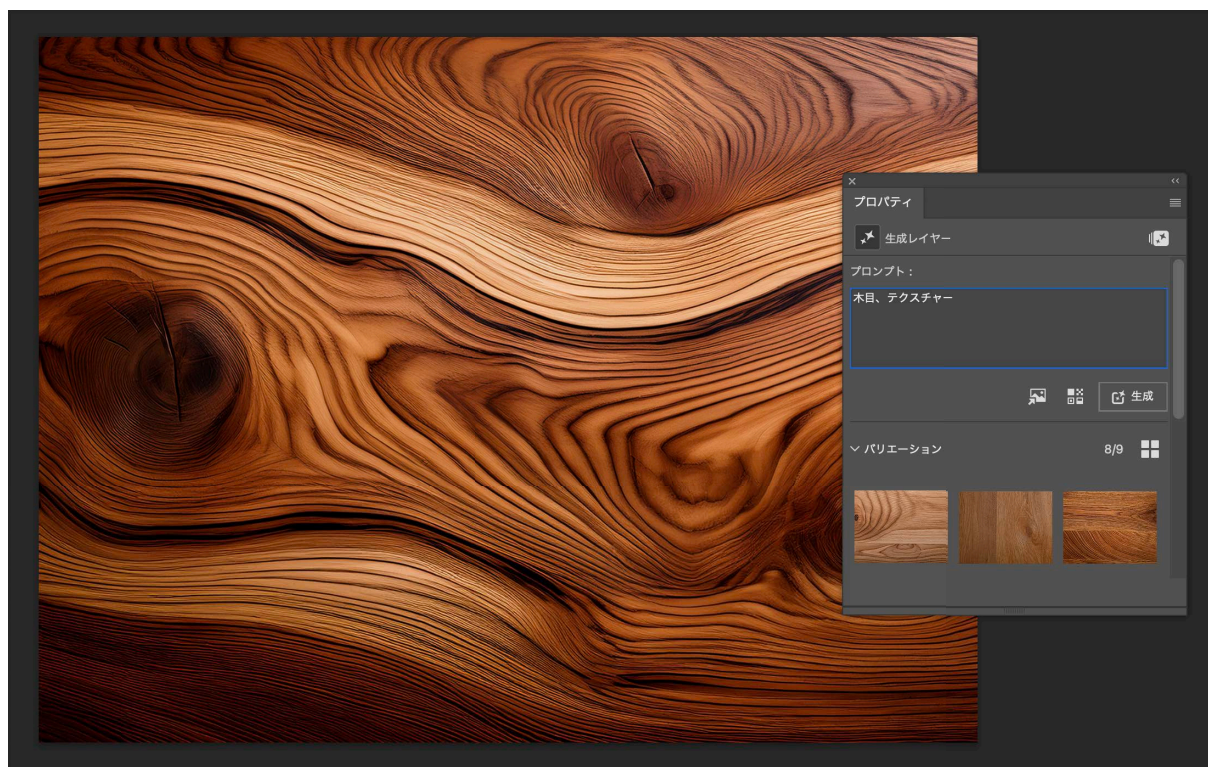


## ⑦プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



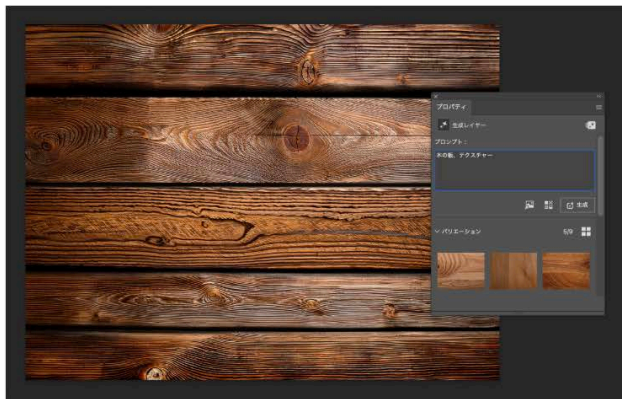
### ヒント

プロンプトに「テクスチャー」を追加し、効果の「シンプル」を設定すると、合成しやすいシンプルな画像が生成されやすくなります。「シンプル」を設定しないと、以下のような画像が生成されます。逆に以下のようなコントラストが強い画像が欲しいケースでは、「シンプル」を設定せずに生成しましょう。

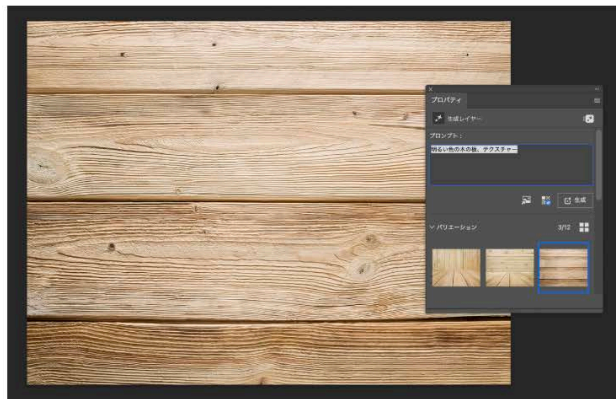




## 別のプロンプト例



木の板、テクスチャー

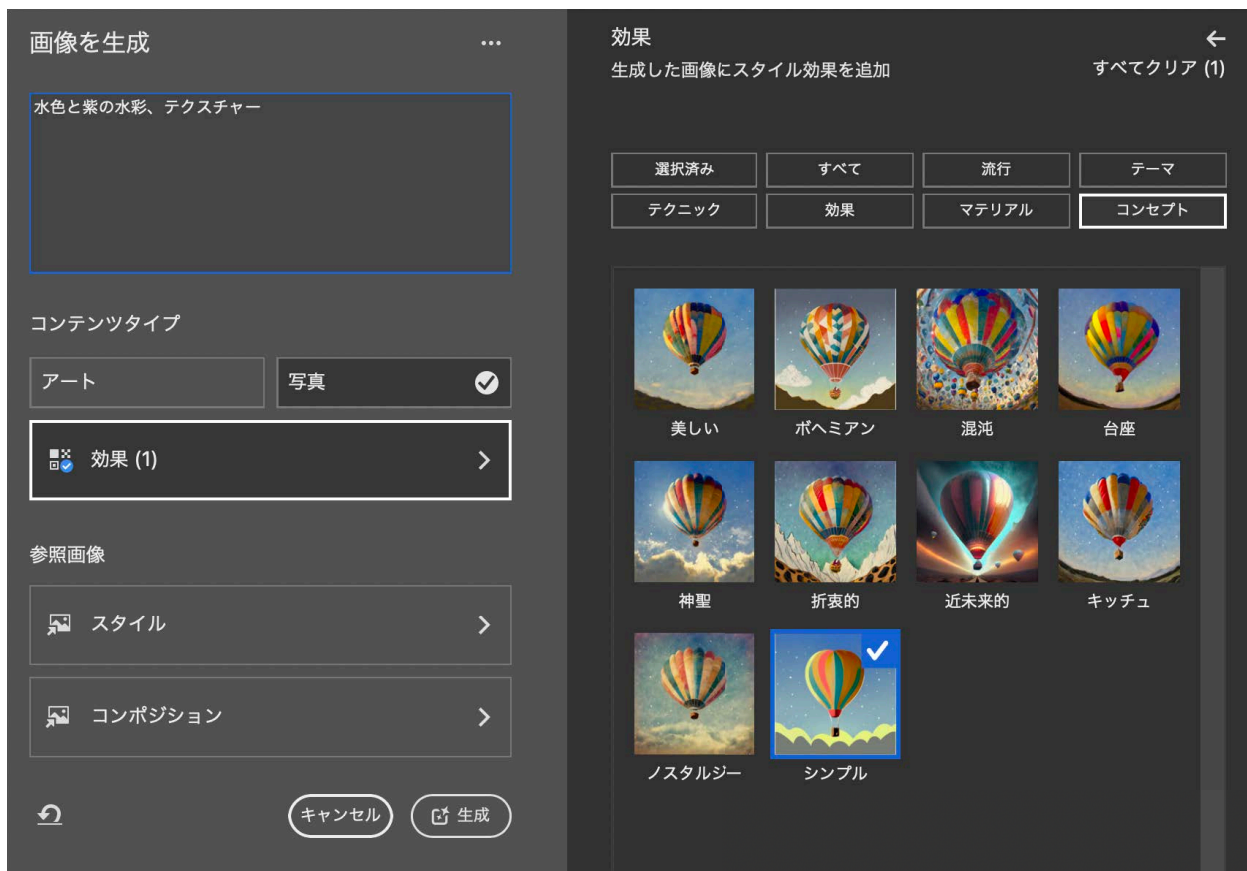


明るい色の木の板、テクスチャー

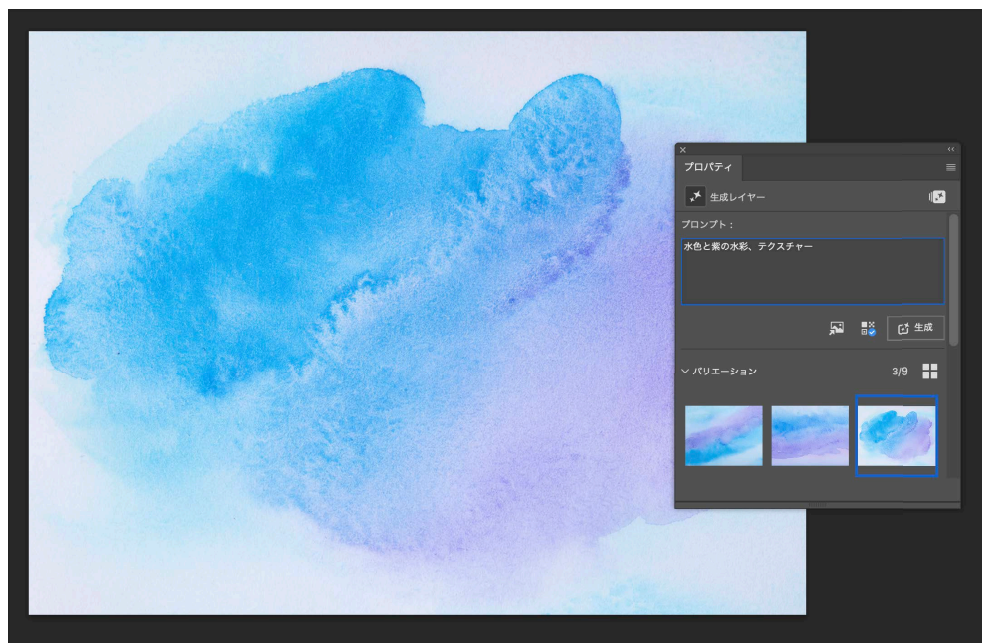
## 1-4 テクスチャー画像を生成してみよう \_2

### 水彩テクスチャーのテキスト

- ①「画像を生成」のダイアログを開く
- ②プロンプトを入力「水色と紫の水彩、テクスチャー」
- ③コンテンツタイプを「写真」にする
- ④効果「コンセプト」→「シンプル」を設定
- ⑤生成



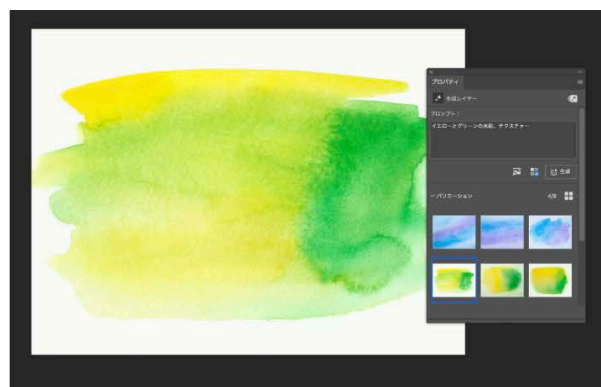
⑥プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



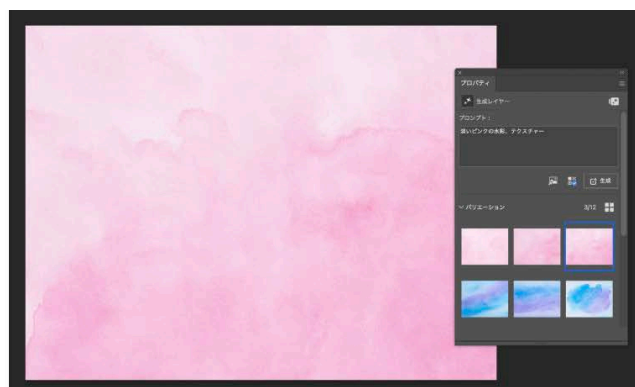
⑦テキストレイヤーを表示し、クリッピングマスクを作成  
(テキストレイヤーの上にテクスチャーレイヤーを移動し、右クリックからクリッピングマスクを作成)



別のプロンプト例



イエローとグリーンの水彩、テクスチャー



薄いピンクの水彩、テクスチャー



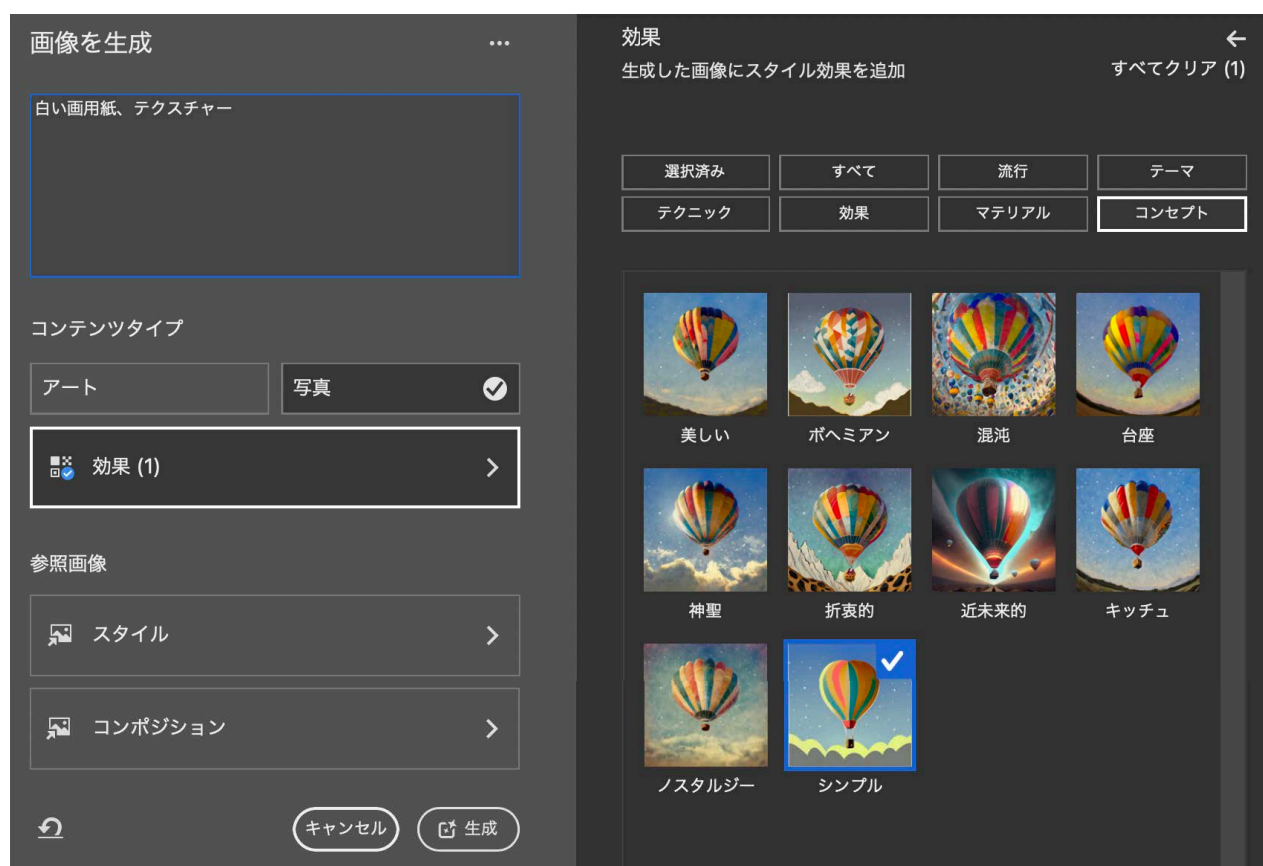
# 紙のテクスチャー画像を生成しよう



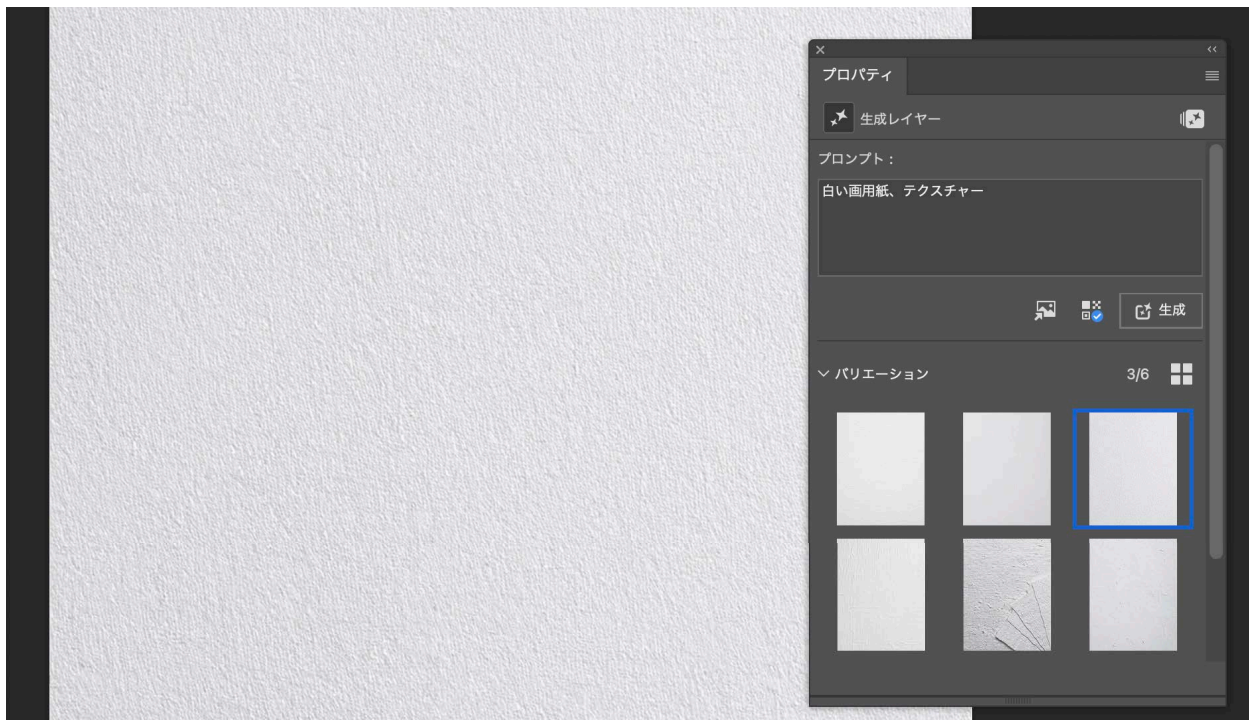
このステップで学べること：紙のテクスチャー画像の生成方法／デザインを紙に合成する方法

## 2-1 紙のテクスチャー画像を生成

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample\_step2\_1.psd を開く
- ②「画像を生成」のダイアログを開く
- ③プロンプトを入力「白い画用紙、テクスチャー」
- ④コンテンツタイプを「写真」、効果「コンセプト」→「シンプル」を設定する
- ⑤生成

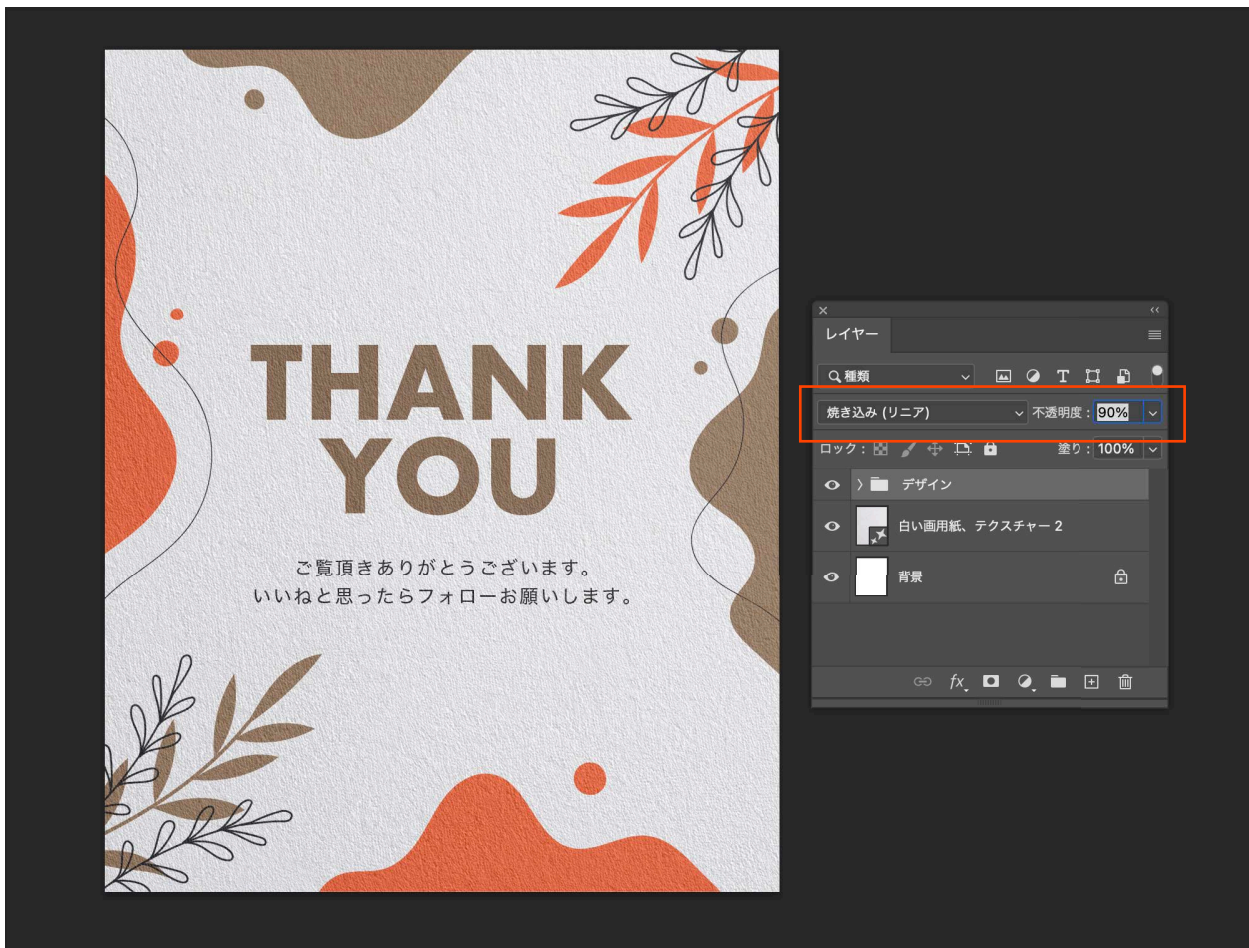


## ⑥プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



## 2-2 デザインを合成

- ①「デザインのレイヤー」を表示し、生成した紙のレイヤーの上に移動
- ②描画モードを「焼き込み（リニア）」に設定
- ③不透明度を「90%」に設定





こういうケースではよく「乗算」が使われますが、「焼き込み（リニア）」のほうが背景の紙の質感がよく出ます。



乗算



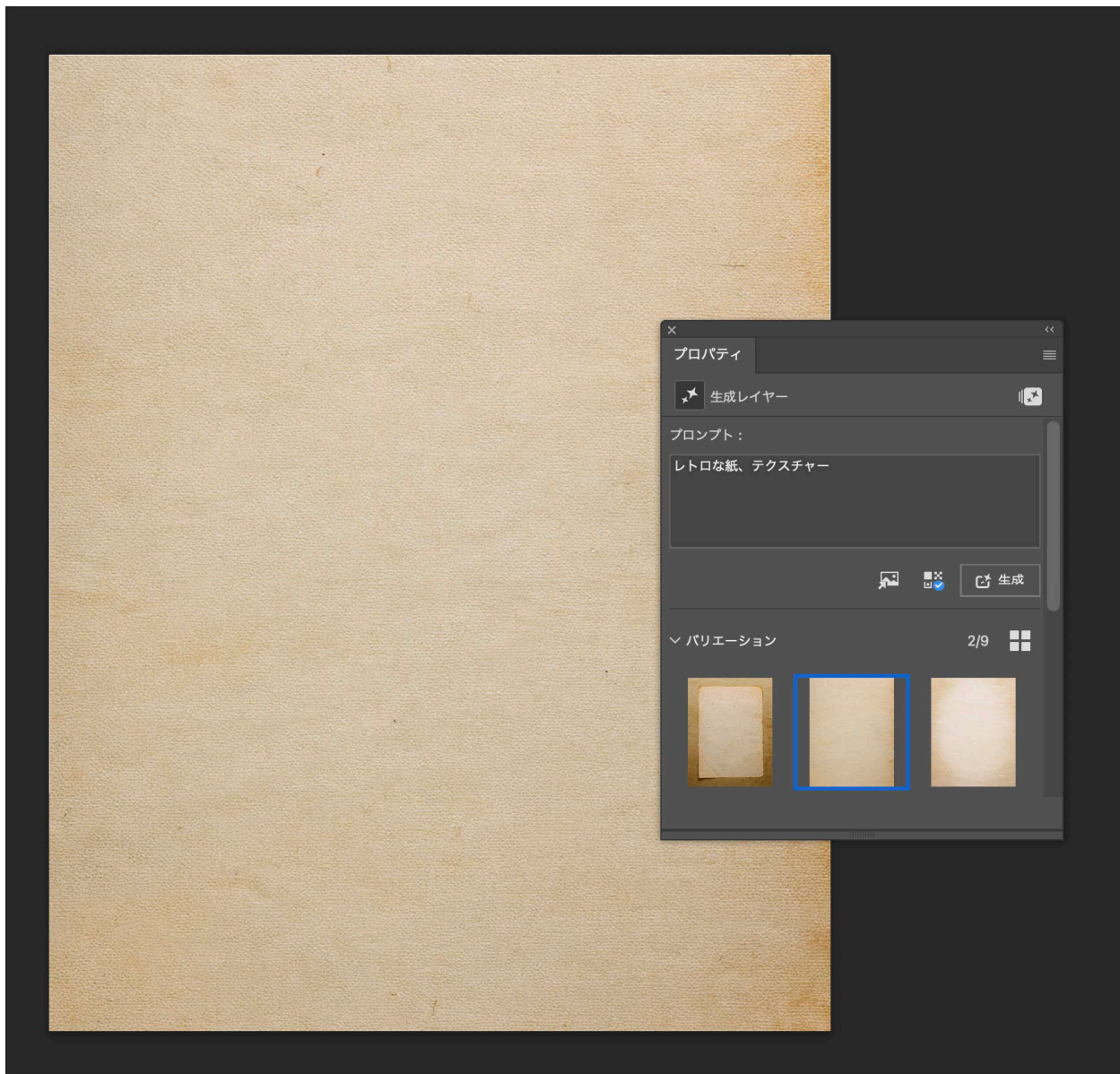
焼き込み（リニア）

## 2-3 レトロな紙のテクスチャー画像を生成

- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample\_step2\_2.psd を開く
- ②「画像を生成」のダイアログを開く
- ③プロンプトを入力「レトロな紙、テクスチャー」
- ④コンテンツタイプを「写真」、効果「コンセプト」→「シンプル」を設定する
- ⑤生成



⑥プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ





## 2-4 デザインを合成

- ①「デザイン」のレイヤーを表示し、生成した紙のレイヤーの上に移動
- ②描画モードを「オーバーレイ」に設定
- ③「デザイン」のレイヤーを1つ複製



### ヒント

黒系のデザインの場合、「オーバーレイ」に設定したレイヤーを2つにすることで、レトロ感のある質感がくっきり表示されます。




レイヤー1つ



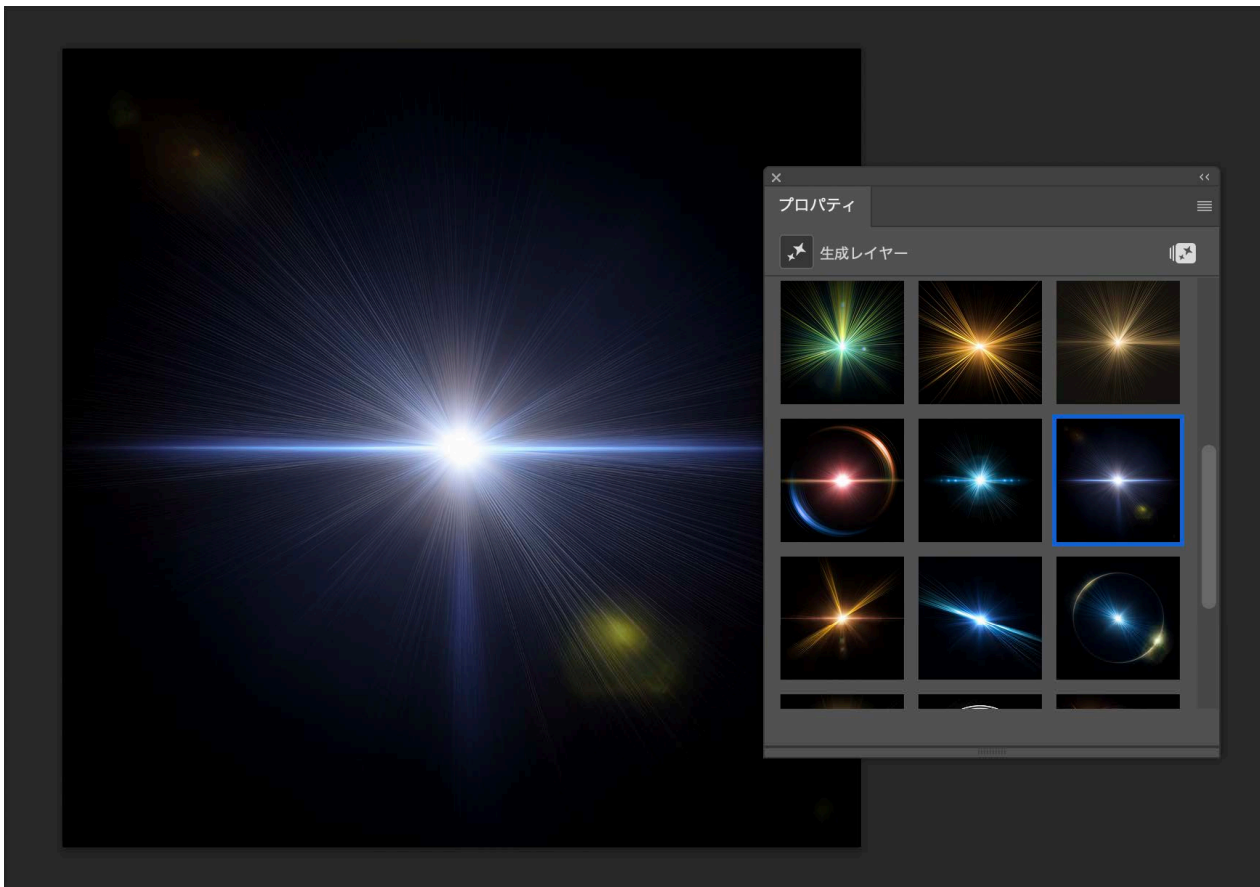
レイヤー2つ

# 光のテクスチャー画像を生成しよう

 このステップで学べること：光のテクスチャー画像の生成方法／光のテクスチャー画像をデザインに合成する方法

## 3-1 光のテクスチャー画像を生成

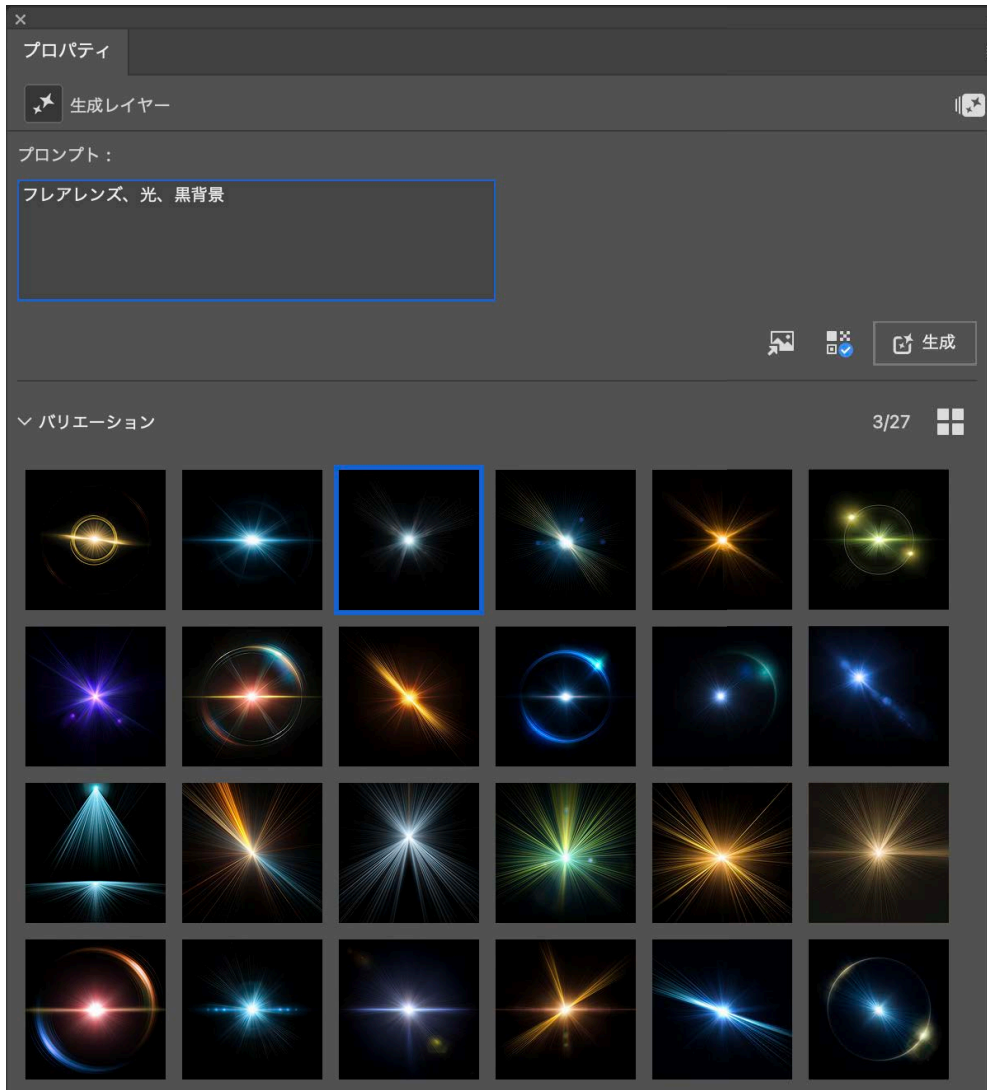
- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample\_step3\_1.psd を開く
- ②「画像を生成」のダイアログを開く
- ③プロンプトを入力「フレアレンズ、光、黒背景」  
(光の場合は「テクスチャー」を入れても入れなくても差がない)
- ④コンテンツタイプを「写真」、効果「コンセプト」→「シンプル」を設定する
- ⑤生成
- ⑥プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ



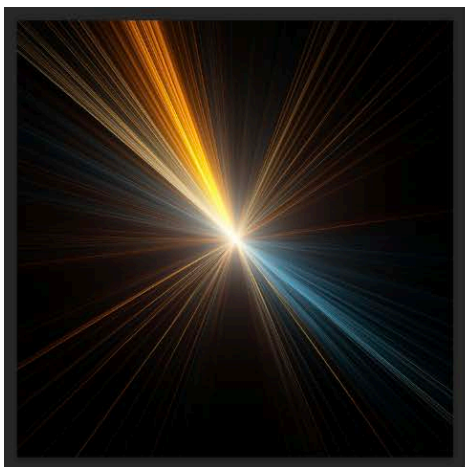


## ヒント

生成するたびに様々な種類の「レンズフレア」が生成されるので2~3回試すのがおすすめです。



## 別のプロンプト例



ビームライト、光、黒背景



シャインレイ、光、黒背景



玉ボケ、光、黒背景


## 3-2 デザインを合成する

- ①「デザイン」のレイヤーを表示し、生成した光のレイヤーの下に移動
- ②光のレイヤーの描画モードを「スクリーン」に設定
- ③光が商品に重なるように位置とサイズを調整



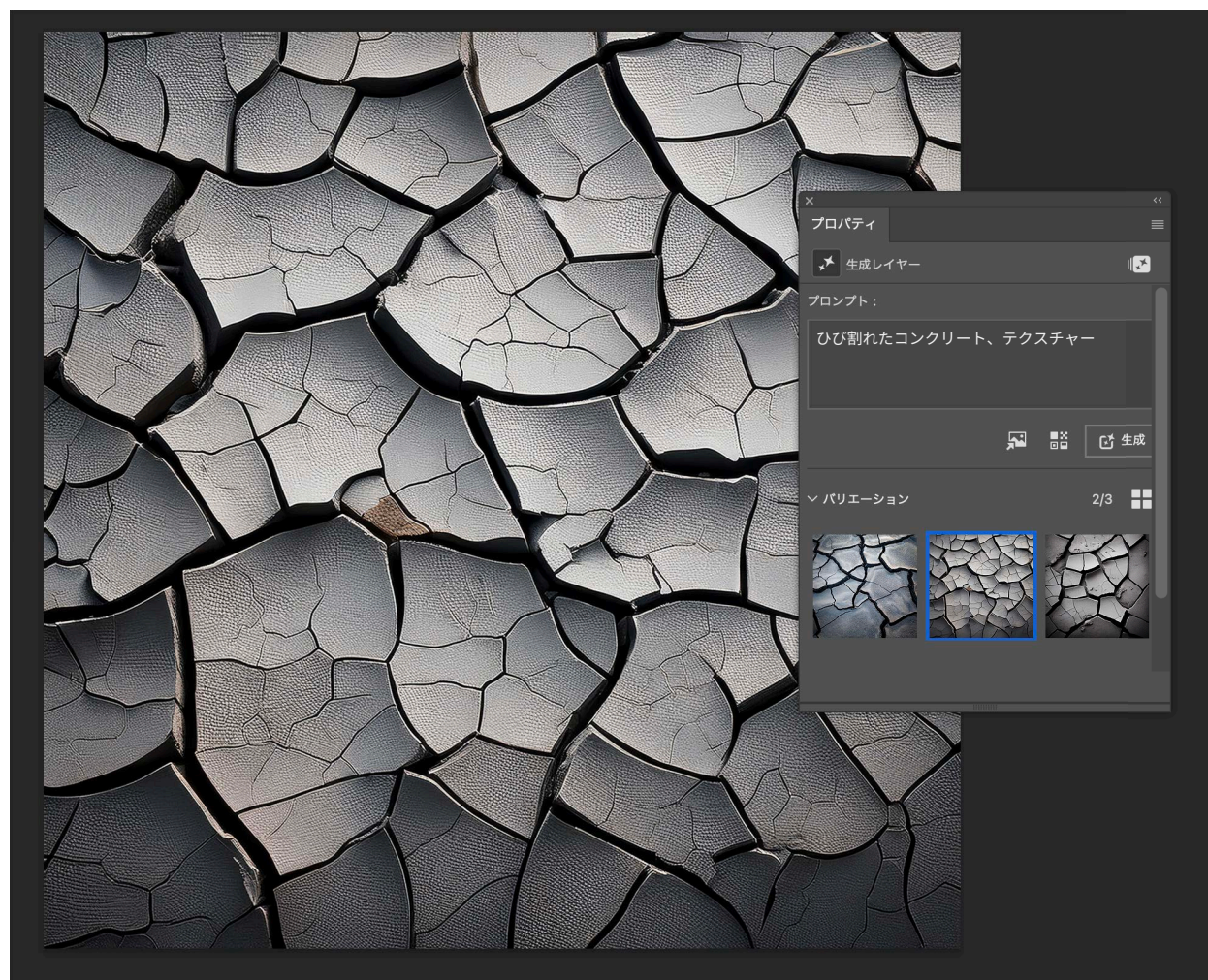


# ひび割れたコンクリートのテクスチャー画像を生成しよう

 このステップで学べること：ひび割れたコンクリートのテクスチャー画像の生成方法  
生成したテクスチャーをブラシに登録して活用する方法

## 4-1 ひび割れたコンクリートのテクスチャー画像を生成

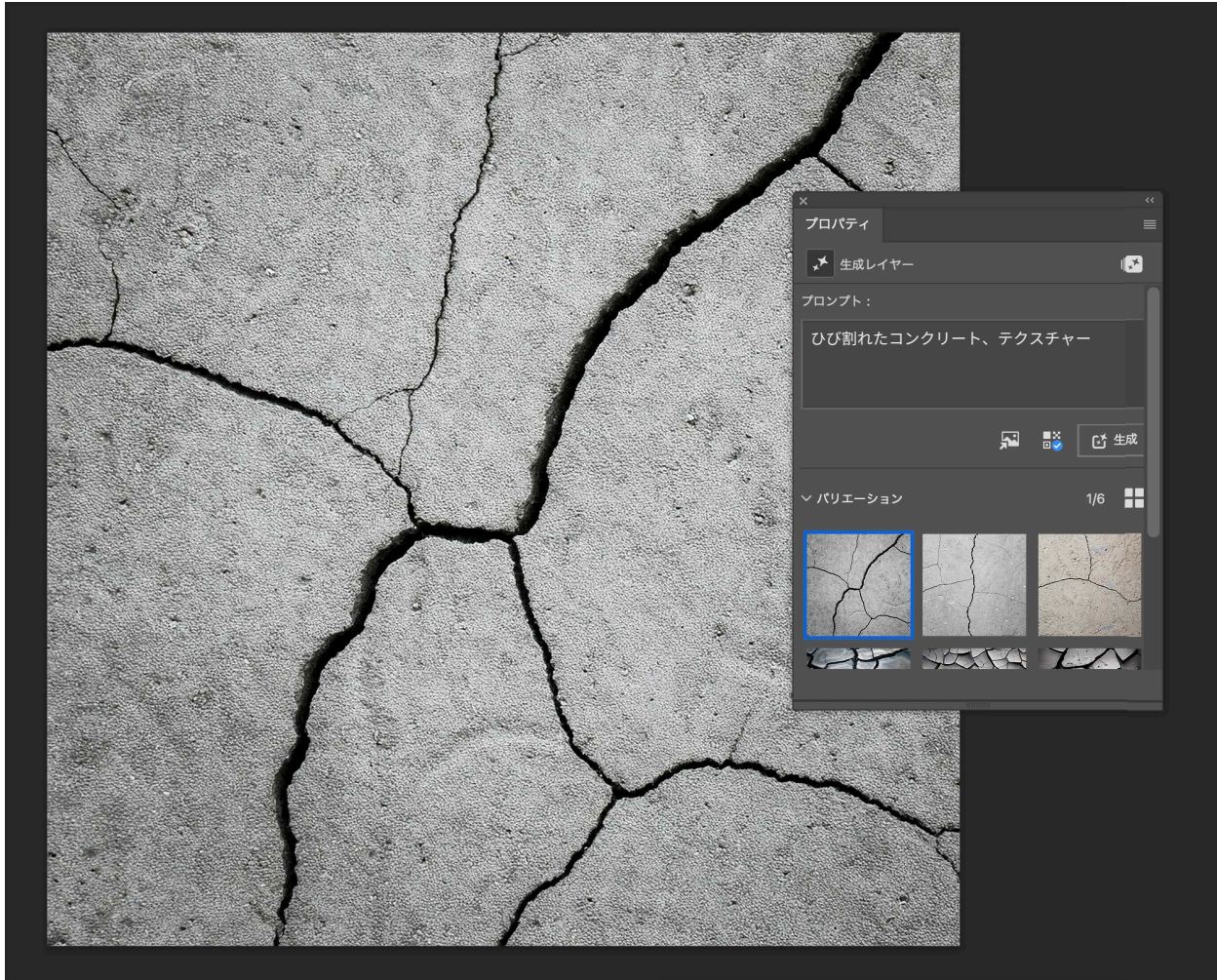
- ①ダウンロードした、ワークショップキットから、sample\_step4\_1.psd を開く
- ②「画像を生成」の画面を開く
- ③プロンプトを入力「ひび割れたコンクリート、テクスチャー」
- ④コンテンツタイプを「写真」に設定する  
(ブラシ素材として使いやすくするため、効果「シンプル」は設定しない)
- ⑤生成
- ⑥プロパティパネルから好きなバリエーションを選ぶ





## ヒント

効果「シンプル」を設定すると、よりフラットなコンクリートが生成されます。背景のデザインに使用するケースに向いています。用途に分けて使い分けましょう。

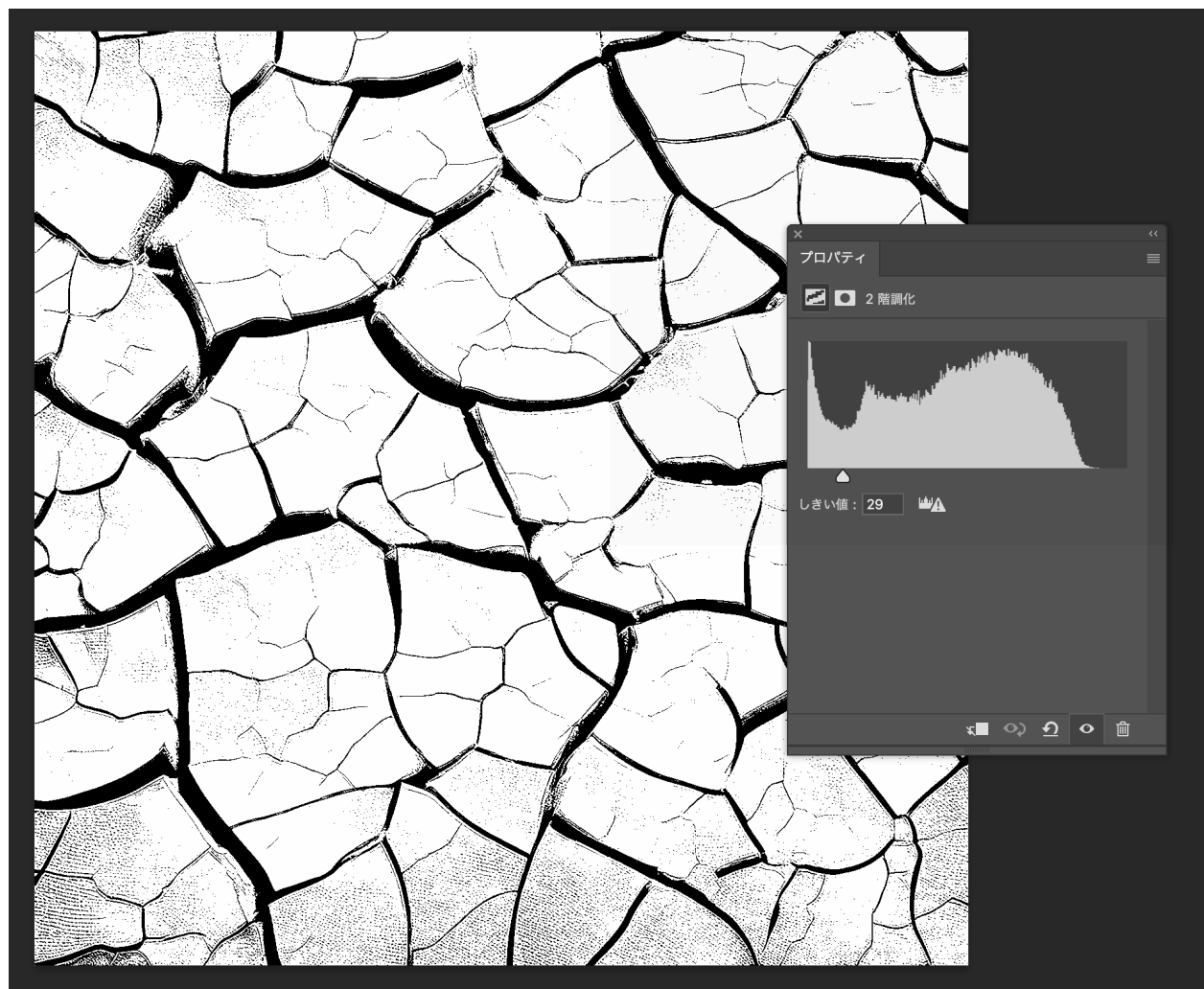




## 4-2 デザインを加工 \_ ブラシに登録

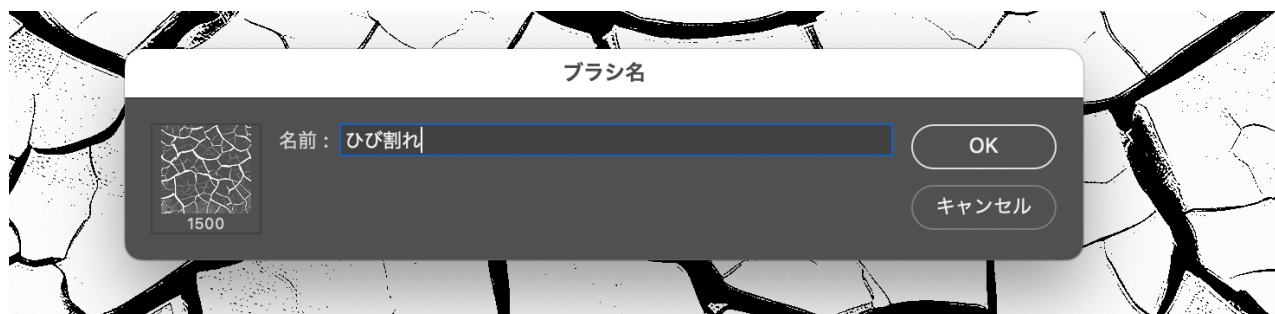
①レイヤーパネルから「調整レイヤー」>「2 階調化」

②プレビューを見ながら、以下の画像を参考にプロパティパネルのスライダーを調整



③画面上部のメニューから「編集」>「ブラシを定義」を選択

④名前を「ひび割れ」にしてOKをクリック



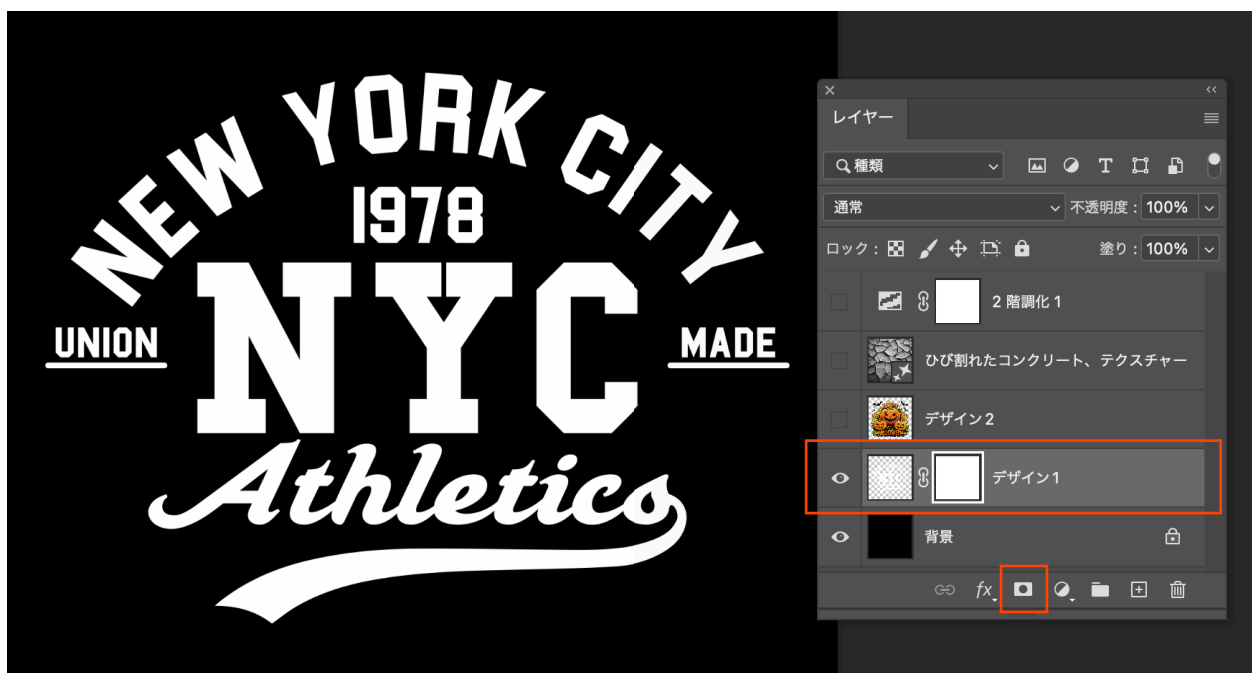
### ヒント

画像をブラシとして登録する際は、「黒い部分」がブラシの形として認識されます。

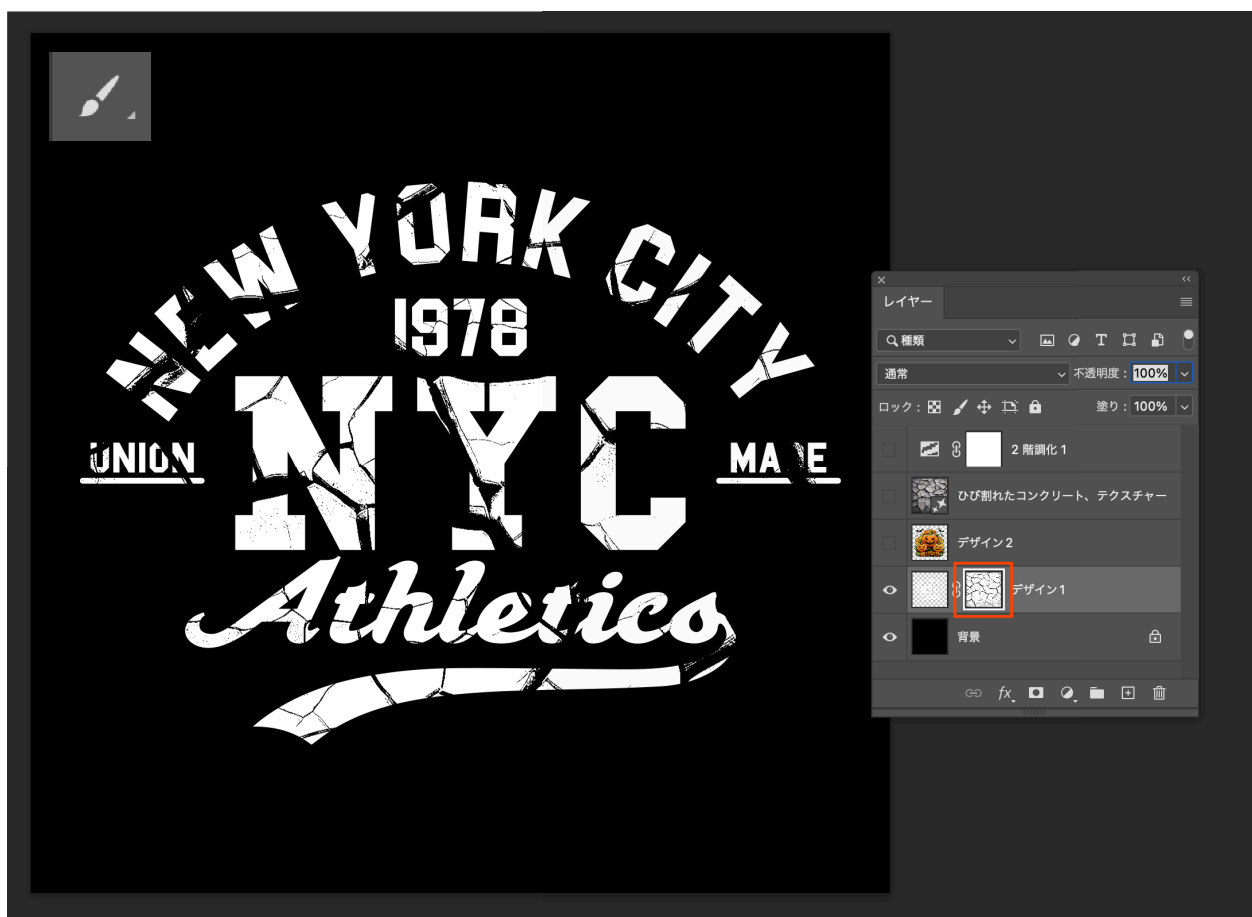
※ 白い部分は透明として扱われ、描画時には表示されません。そのため、2 階調化して白くしておく、きれいなブラシとして登録できます。

### 4-3 デザインを加工 \_ ブラシを使う

- ①レイヤーパネルから、生成した画像のレイヤーと調整レイヤーを非表示にする
- ②「デザイン1」のレイヤーを表示して、レイヤーマスクを作成



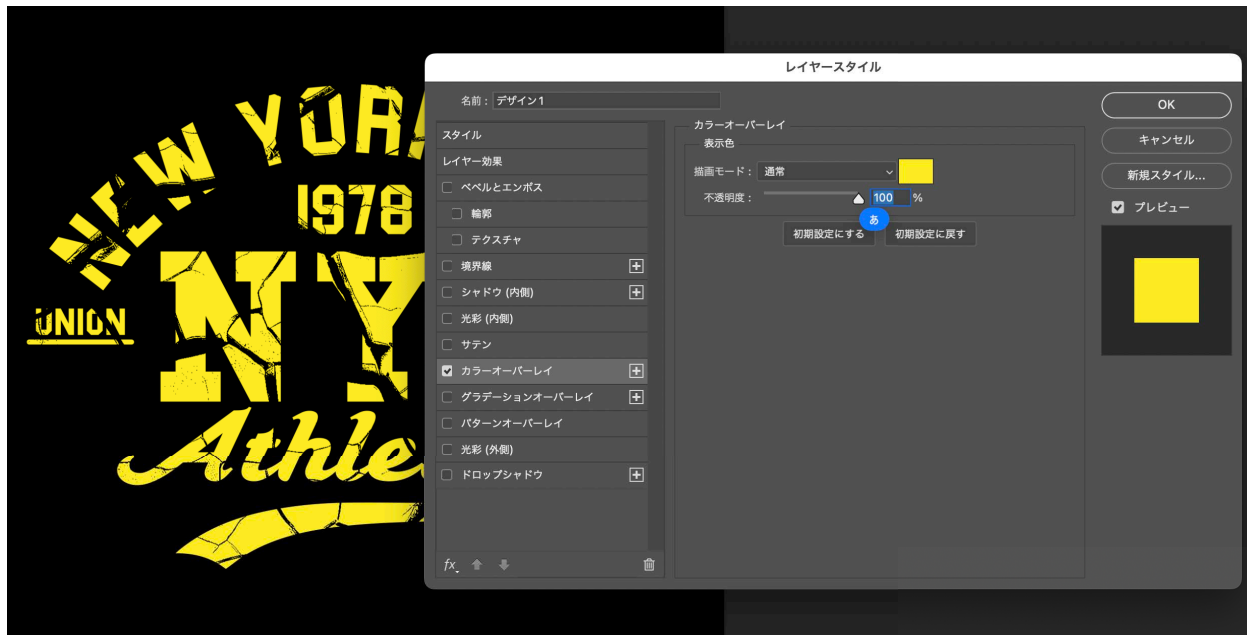
- ③ブラシツールに切り替える
- ④オプションバーからブラシの種類を「ひび割れ」にする
- ⑤ツールバーの下から描画色を黒にする
- ⑥クリックで描画する（マスクが選択されていることを確認しましょう）





⑦デザイン1レイヤーの名前の右側をダブルクリックし、レイヤースタイルを開く

⑧カラーオーバーレイを選択し、好きなカラーに変更

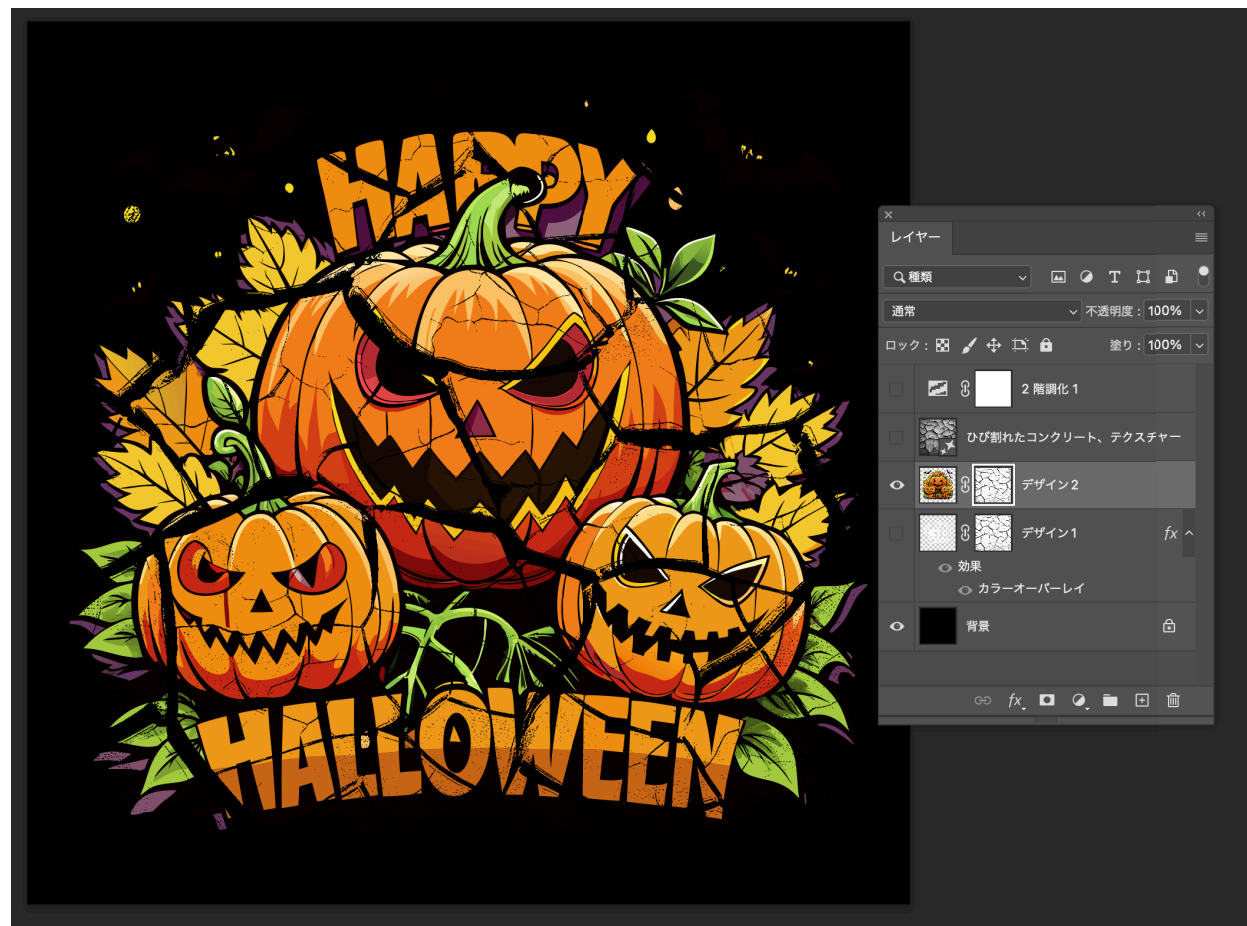


## 4-4 別のデザインを加工

①レイヤーパネルから、デザイン1レイヤーを非表示にする

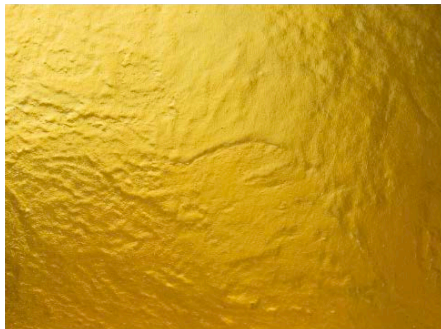
②「デザイン2」のレイヤーを表示して、レイヤーマスクを作成

③「ひび割れ」ブラシをクリックで描画する





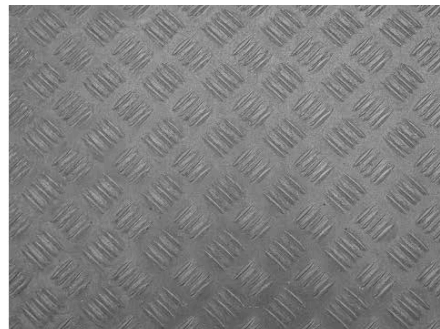
## 4-5 別のデザインを加工



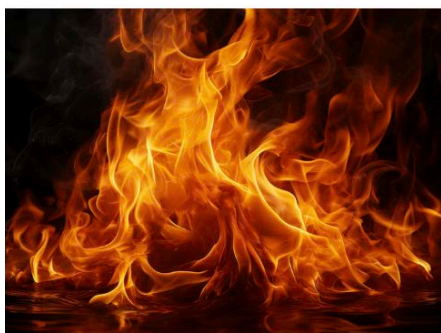
ゴールド、テクスチャー



ステンレス、テクスチャー



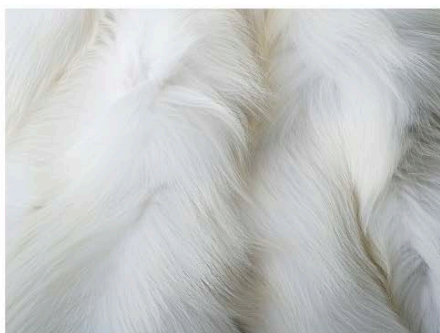
鉄板、テクスチャー



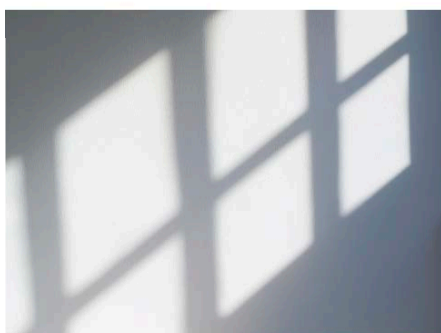
炎、テクスチャー



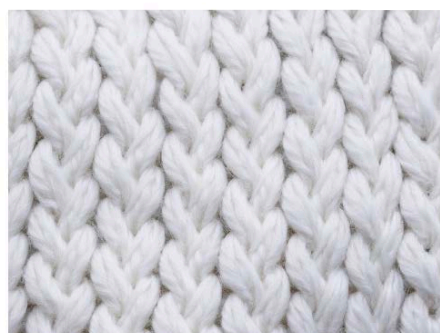
レンガ、テクスチャー



ファー、テクスチャー



窓の光、白背景



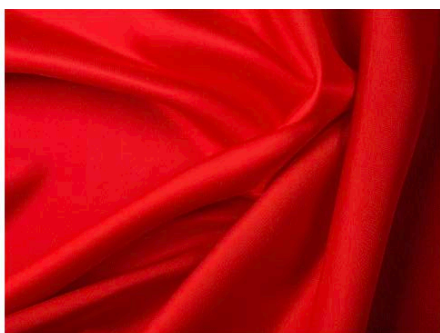
ニット、テクスチャー



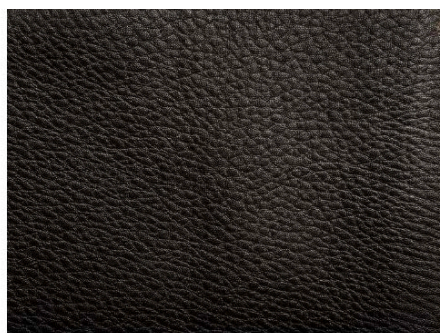
デニム、テクスチャー



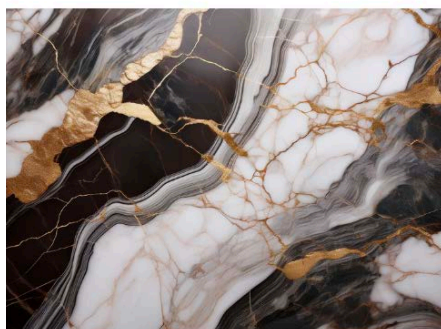
植物の光、白背景



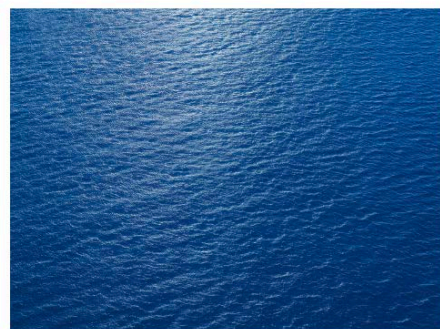
赤い布、テクスチャー



レザー、テクスチャー



大理石、テクスチャー



水面、テクスチャー



錆びた金属、テクスチャー